

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4079600534		
法人名	特定非営利活動法人 あたか		
事業所名	グループホーム あたか		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果確定日	平成22年8月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	平成22年7月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームあたかは、自然豊かな山里にあります。敷地内にある畑では、季節の野菜作りを楽しんでおり、自分達で育て、収穫、皮むき等の下ごしらえから調理までを行った、新鮮な野菜達が毎日食卓を賑わしております。皆、緑いっぱいこの地域で流れる時間の様に、毎日ゆったりと過ごされています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの理念に「この地域の中でゆっくり過ごしていただける共同生活」とあるように、自然豊かな土地で、長年、苦労を重ねてきた人生の先輩達に寄り添いながら、ホームの畑で収穫した野菜や近隣からの差し入れの季節の野菜を中心に、入居者と職員と一緒に作り、美しく盛り付け、和やかに食べるなど、入居者の楽しみである食事を大事にしている。春には山の恵みの山菜取りに出かけ、梅干つくりや漬物、干し柿作り等、山里のくらしを入居者と共に笑いながらゆっくりと過ごせるように支援している。施設長は、入居者が元気で落ち着いて生活できていることを喜びとしている。職員は穏やかな声掛けや、長年の重労働のため足が痛いと言及の訴えに根気強く丁寧に対応している。又、家族や職員の意見でスロープの設置や支援の改善・工夫がされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
66	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	66	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム あたか**

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎回、朝礼時には社是・笑顔の心の10箇条・介護の心得四原則の復唱を行いグループホームあたかの理念の共有を心掛けている。	玄関の壁に「この地域の中でゆったりすごして頂ける共同生活を目ざしている。一緒に笑い、一緒に泣いて気が付けばいつも側にいてくれる人いる。それが私たちです。」と理念をかかげ、職員の寄り添った支援や利用者同士で支援がされてい	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加し、地域住民との係わりを持つようになっている。	近隣住民である施設長が自治会に加入している。近隣の入居者も多く、家族からの野菜の差し入れや草取りのボランティアがある。近くの小学校は閉鎖されたが子どもたちが来訪したり、盆踊りが巡行している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催のイベント等に地域住民の参加を呼び掛け、認知症の方々の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者家族の意見を尊重し、頂いた意見については、直ちにミーティング等で話し合うようにしている。	2ヶ月毎に議事予定を記載したはがきを出し、毎回2～3名の家族が参加している。ホームの居間で開催され、入居者も自由に参加している。家族からの意見で勝手口側をスロープにしたり、食用油の種類や使用法を改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でホームの理解を求め、またホームでのイベントの参加をお願いしている。	運営推進会議に町の健康福祉課の職員が参加し、相談や情報を交換している。ホームの介護支援専門員や看護師が、退去者の受け入れ先の施設などを直接探している。	今後は地域包括支援センターに空室状況等の報告や研修の情報や講師の派遣等の依頼で、行政との連携に努めていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会等で、定期的に身体拘束に関する議題を設け、全職員の正しく理解するように取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアル及び緊急止むを得ない身体拘束の説明書や経過記録を整備している。玄関にセンサーを設置し、昼間は鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。外出時は付き添ったり、近所の方が入居者が外出していると知らせてくれたりしている。	家族から玄関等の施錠の依頼があった場合、全職員がホームの取り組みや方針を説明できるように、身体拘束の具体的な内容と弊害等の研修の実施をお願いしたい。又、無断外出時の対応として、交番や消防署との日頃からの連携をお願いします。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会等で、高齢者虐待について話し合い、職員同士で互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設け、話し合いを行っている。	成年後見制度の研修会に施設長が参加し、パンフレットを整備している。	参加された研修内容を職員へ伝達講習を行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度の周知に努めるとともに、入居者・家族に情報提供をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明が一時的にならぬよう利用者やその家族が十分に理解・納得しているかを伺っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者では日々の会話の中で、家族等では運営推進会議の中や意見箱を設け、意見や要望が上がり易くなるよう努めている。	2ヶ月毎に発行している「あたか便り」や家族の訪問時に、ホームでの暮らしぶりや健康状態等を報告し、意見をいただいている。家族から「手仕事をさせてほしい」「外出をふやしてほしい」「職員は名札をつけてほしい」等の要望があり、取り組みの経過や結果を報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案が上がれば、その都度ミーティングを開き話し合い、意見を反映させている。	職員の意見で、排泄状態に応じた介助やかぶれ予防のためにホットタオルでの清拭、入居者毎のペットボトルの使用で水分摂取を把握している。また、入居者の介護度が高くなり職員の増員要請に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ほぼ毎日ホームに顔を出しており、職員の勤務状況については、十分に把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	労働基準法に添った労働条件を整え採用を行い、職員の権利が十分に保証されるよう努めている。	職員の採用は特に基準を設けておらず、看護助手の経験のある職員や60歳代の職員もいる。雇用契約書を取り交わし、就業規則を整備し毎年健康診断を行っている。	新任及び現任の職員の研修計画を作成し、交代で研修を受ける機会の確保や段階に応じた研修を提供し、人材育成に取り組んでいただきたい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや勉強会等では、定期的に人権教育に関する議題を設け、啓発活動に取り組んでいる。	施設長が研修会に参加し職員に伝達している。又、日頃から朝礼などで話をしている。高齢者虐待防止マニュアルが整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者も介護職員として勤務しており、各職員のケアについては十分に把握している。また、研修等には積極的に参加し、学んだ内容について発表する機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互訪問等を行い、良い点は積極的に取り入れる等し、サービスの質の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で十分に生活状況を伺っている。また、入居に際しての要望等があれば、全職員で話し合い安心して生活できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談でご家族の話を十分に伺い、会話の中から入居に際しての不安や要望等がないかを感じ取り、引き出せるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりに合ったサービスが提供できるよう常に柔軟な対応を心掛けている。また、必要な際には他のサービス機関に相談し利用できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯・畑仕事等、出来る事は何でもしていただき、互いに支え合う共同生活者の一員としての関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、互いに意見の交換が出来るように話し合いの時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、本人に馴染みのある場所経由で思い出話をしながら、ドライブを楽しむ等している。	近隣の入居者が多く、家族参加で筍採りにでかけたり、民生委員の住職から法話やお伽のお誘いがあり、これまでの生活が継続されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションやおやつの時間等利用者同士が顔を合わせる時間には必ず声をかけ、自室にこもりがちにならないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのイベントへの参加を呼び掛けたり、見舞いに行ったりと、その後の様子を気にかけこれまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から意向を感じとり、本人の希望に沿った暮らしが出来るようにしている。	日々の関わりの中から、入居者の意向や大事にしている物および以前の生活ぶりを把握し、それらの情報を毎日のケアに活かしている。又、施設長は入居者の思いを受け止めるためにも、業務日誌に記録する際は、入居者の言葉をそのまま記載するように指導している。	職員が把握した情報の整理や入居者全員のアセスメントシートの記載をお願いしたい。さらに入居者の理解が深まり、職員間の情報共有ができることを期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との話し合いにより、一人ひとりのこれまでの人生を十分に理解し、より良いケアが行えるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態や生活ぶりを日誌に分かりやすく記録し、全職員がいつでも把握出来るように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・職員等各方面からの意見を反映し、一人ひとり現状に即したケアのあり方を考えている。	入居者・家族の意向をふまえて介護計画が作成されている。職員の業務日誌の記録の気づきなどを参考にモニタリングし、計画を見直している。作成された介護計画は入居者・家族の了承を得ている。	現状に即した介護計画を作成するために、介護計画作成担当者をはじめ全職員で、モニタリングや介護計画の意見交換や検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別に記録し、ミーティング等で介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズには、可能な限り答えるよう柔軟な対応を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全・安心な暮らしが出来るように民生委員・警察・消防・地域住民等への協力体制を整えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への定期的な受診を行い、診療の様子や医師からの支持は、全職員に伝達し、ご家族への連絡も行っている。	かかりつけ医や眼科や歯科・認知症の専門医の受診、訪問歯科受診も支援している。受診時には付き添いの職員より情報提供し、個別の受診記録に受診結果を記録し、家族に報告している。昨今、うつ状態が悪化し入院した入居者もいる。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員としての勤務も行っており、常に個々の健康状態を把握出来る状態にある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が定期的に見舞いに行き、医師や看護師等から十分な話を伺い現状を把握し、早期の退院支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方についての方針を定め、ご家族には事前説明を行っている。また、日頃から医療機関との連携を図り、急変の際には対応できるような取り組みを行っている。	重要事項説明書に重度化した場合の対応を明記し、医療機関へ適切に受診できるよう連携している。	ホームでの看取りは対応されていないが、これからどのように過ごしたいのか、入居者・家族の意思及び治療についての希望などや確認の場を提供されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って落ち着いた対応が出来るように、全職員定期的な訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	レクリエーションを兼ねて利用者も含めた避難訓練を定期的に行い、対応出来るようにしている。	緊急連絡網を整備し、年に2回通報訓練・避難訓練を行っている。スプリンクラーが設備され、消火器を設置している。	災害時の避難場所として福祉施設等の検討や、消防署等の協力を得て夜間想定の実施や救急蘇生法の研修をお願いしたい。又、水害時には井戸水は飲めなくなるため飲料水の備蓄も検討をお願いしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場に立って考えることで、プライバシーに配慮したケアを心掛けている。	契約書に入居者の権利を尊重し、礼節と尊厳を持って接することを明記し、日々の関わりに努めている。個人情報に関する保護の方針を玄関に掲示し、個人情報使用同意書を取り交わし、雇用契約書に守秘義務を明記している。職員は穏やかな声掛けで、長年の重労働のため足が痛い等の繰り返し訴えに根気強く丁寧に対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な話し掛けではなく、会話のキャッチボールが出来るように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日の体調を把握し、無理のない支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に数回美容の日を設け、毛染めやカットを行っている。希望があれば、ご家族に連絡を取り対応をお願いしたり、買い物に出かけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら採取した季節の山菜等を準備し調理することで、楽しく食事出来るように支援している。	入居者から食材の皮むきの手伝いの声がかかったり、調理の経験者は持っている力を充分に発揮し、自家製の梅干や漬物が食卓に並んでいる。季節の野菜を取り入れた料理がきれいに盛り付けられている。「道の駅」まで食材の買出しに出かけたり、月に1～2回、好みのものを外食したりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好を理解した上で栄養バランスを考えた献立を取り入れるようにしている。また、マイペットボトルでの水分補給を行い一日の水分量を把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターンを理解することで、排泄の失敗やおむつの使用頻度を減らす支援を行っている。	入居者の排泄パターンをを把握し、必要に応じての紙パンツを使用している。夜間ポータブルトイレを設置している入居者は這ってトイレに行かれるので、介助を行っている。昼間のトイレ介助もさりげなく付き添い、失敗がないように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分量の確保・レクリエーションや散歩等便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調を把握し、一人ひとりの生活リズムに合わせた入浴時間になるよう配慮している。	週3回、午後に入浴しているが、希望時や汗をかいた時に入浴したり、失禁等は随時シャワーで対応している。浴室から田園の風景が見え開放感があり、ゆっくり入りたいと最後に入浴を希望する方もいる。柚子が取れる時期は柚子湯を楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調に合わせた適度な運動を促す等して、安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況については全職員が把握し、症状に変化があれば医師への相談を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、畑仕事や個々の力に合わせた家事の役割を与え、気分転換になるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントへの参加やドライブ、買い出しや散歩等単調な生活にならないように支援している。	自然豊かなホームの周りは水田が多く、青々とした苗から黄金色に輝く稲穂へと四季の移ろいを感じることができ、天気の良い日はホームの近辺を散歩している。「道の駅」やお祭り見物等に全員で出かけ、ホームの廊下には、お花見や日田市へのドライブに行った時の写真が飾られている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買い物に出かけ、支払いまで行えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に自室で電話が出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、熱帯魚の水槽を配置したりと心地よい共用空間になるように配慮している。	居間兼食堂には全入居者で困めるテーブルや四方から使用できる調理台が設置され、入居者や職員と一緒に過ごす場となっている。居間の和室、玄関や廊下にソファや椅子が置いてあり、入居者それぞれが好みに寛げる空間になっている。採光がよく、玄関や他の3ヶ所の出入り口が開放されていて季節のさわやかな風が流れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファ等を配置し、居室以外でも気軽にゆったりと出来る空間を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンス等使い慣れた日用品の持ち込み等、見慣れた居室となるように工夫している。	和室が3室設置されてる。円背傾向で独歩が困難な入居者には和室で座卓に座布団が置かれ正面にテレビがあり、手が届く位置に生活用具が配置されたり、洋室利用者はベットや家具を持ちこんでいる。希望者は事業所の家具類を使用するなど、入居者1人1人が生活しやすいように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	急かさず、何事もゆっくと個々のペースで生活ができるように支援している。		